

スマレの育て方

スマレは、日本に約50種が知られており、変種、品種などを加えると、その数は約200種類にもなります。このようにスマレは種類が多く変化に富んだ野草として最近多くの人々に楽しまれています。そこで、鉢作りを中心にスマレの育て方を説明します。

作りやすい種類

スマレ……………日本各地の路傍や草地に普通に自生し、重弁花のコモロスマレ、斑入葉のニシキスマレも市販されています。似た種類にノジスマレ、コスミレがあります。

タチツボスマレ…林縁の明るい草地に多く自生し、花後茎が伸びてきます。似た種類にオオタチツボスマレ、イソスマレなどがあります。

ヒゴスマレ……………明るい山地の林床に自生し、掌状に切れ込む葉の形が珍しい。似た種類にエイザンスミレ、ナンザンスミレがあります。

植え方(図1)

鉢……3～5号の腰高の鉢で底穴の大きいもの。

用土…径3～5mmの軽石砂に赤玉土2割と腐葉土1割を混ぜます。

時期…開花直後が最適です。落葉後または芽出し前でも可能です。

方法…鉢底に粗砂を敷き、根を広げて用土を入れます。芽がかくれる程度に植えて、増し土のためのスペースを残しておきます。

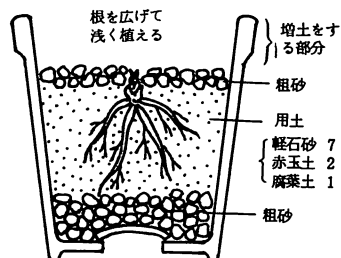


図1 スマレの植え方

管理

置き場…秋～春はよく日に当て、夏は風通しの良い半日陰に置きます。

水やり…生育中は水切れしないように、休眠中は多湿にならないようにします。

施肥…春と秋に液体肥料1000倍液を週1回与えるか、緩効性肥料を1回ずつ置きます。

病害虫…ハダニ、アオムシなどが発生するので防除して下さい。春と秋には葉が白く枯れ込むソウカ病が発生します。早めにダイセン系の薬剤を散布します。

増し土…生育途中の株元が露出した鉢と、落葉後の冬芽に粗砂や落葉で増し土します。

繁殖(図2, 3)

実生…春はやや未熟の種子をパーミキュライトなどに採りまきます。秋の種子は乾かして冷蔵庫に保管し、春にまきます。

根伏せ…太い根を1～2cmに切り、パーミキュライトや水苔にさしておくと不定芽が出ます。

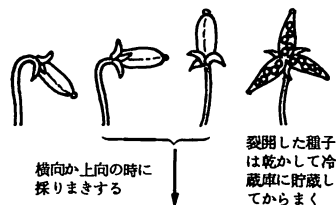


図2 たねのまき方

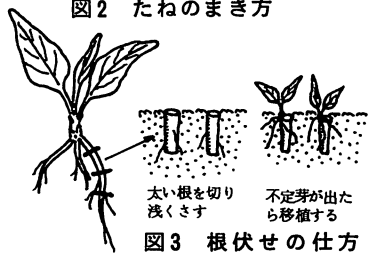


図3 根伏せの仕方

